

令和元年度(2019年度)高等学校OPENプロジェクト実施報告書(2年次)

研究指定校	北海道白老東高等学校	教育局	胆振教育局
-------	------------	-----	-------

1 研究主題											
白老で学ぶ伝統文化～「地域学」等の取組について～											
2 研究実践内容											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>・第3学年の学校設定科目「地域学」の授業において、選択生徒23名が白老町内の萩野小学校の小学生とアイヌの古式舞踊の合同練習を実施し、「イランカラプテ音楽祭in白老」で披露した。</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>・第1学年生徒70名が「総合的な探究の時間」において、アイヌ文化体験学習及び仙台藩白老元陣屋資料館見学を実施した。その後、地域・アイヌ民族に関する学習についてのアンケート調査を実施した。 ・第3学年の「地域学」において、選択生徒23名が穀物採取・狩猟などの体験学習を通して、アイヌ文化への理解を深めた。</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>・第3学年の「地域学」において、選択生徒23名が白老町の出前講座を受講し、白老町の観光や水産業の在り方について考察した。 ・札幌で開かれた中間発表会において、「イランカラプテ音楽祭in白老」などの高校生による地域のイベントへの貢献及び授業における地域人材との連携について発表した。</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>・第3学年の「地域学」において、選択生徒23名が1年間で学んだ内容について発表した。</td> </tr> </tbody> </table>	月	実施内容	6月	・第3学年の学校設定科目「地域学」の授業において、選択生徒23名が白老町内の萩野小学校の小学生とアイヌの古式舞踊の合同練習を実施し、「イランカラプテ音楽祭in白老」で披露した。	9月	・第1学年生徒70名が「総合的な探究の時間」において、アイヌ文化体験学習及び仙台藩白老元陣屋資料館見学を実施した。その後、地域・アイヌ民族に関する学習についてのアンケート調査を実施した。 ・第3学年の「地域学」において、選択生徒23名が穀物採取・狩猟などの体験学習を通して、アイヌ文化への理解を深めた。	10月	・第3学年の「地域学」において、選択生徒23名が白老町の出前講座を受講し、白老町の観光や水産業の在り方について考察した。 ・札幌で開かれた中間発表会において、「イランカラプテ音楽祭in白老」などの高校生による地域のイベントへの貢献及び授業における地域人材との連携について発表した。	1月	・第3学年の「地域学」において、選択生徒23名が1年間で学んだ内容について発表した。
月	実施内容										
6月	・第3学年の学校設定科目「地域学」の授業において、選択生徒23名が白老町内の萩野小学校の小学生とアイヌの古式舞踊の合同練習を実施し、「イランカラプテ音楽祭in白老」で披露した。										
9月	・第1学年生徒70名が「総合的な探究の時間」において、アイヌ文化体験学習及び仙台藩白老元陣屋資料館見学を実施した。その後、地域・アイヌ民族に関する学習についてのアンケート調査を実施した。 ・第3学年の「地域学」において、選択生徒23名が穀物採取・狩猟などの体験学習を通して、アイヌ文化への理解を深めた。										
10月	・第3学年の「地域学」において、選択生徒23名が白老町の出前講座を受講し、白老町の観光や水産業の在り方について考察した。 ・札幌で開かれた中間発表会において、「イランカラプテ音楽祭in白老」などの高校生による地域のイベントへの貢献及び授業における地域人材との連携について発表した。										
1月	・第3学年の「地域学」において、選択生徒23名が1年間で学んだ内容について発表した。										
3 地域みらい連携会議の開催内容											
第1回	令和元年6月25日(火) 16:00～17:00										
出席者	武永真委員、森洋輔委員、三宮賢豊委員、江草佳和委員、日置典邦委員										
協議内容	事業の趣旨、実施計画について説明										
指導・助言を受けた内容	各関係団体における協力の形態や事業の実施内容について確認した。										
第2回	令和元年8月23日(金) 16:00～17:00										
出席者	武永真委員、八幡巴絵委員										
協議内容	アイヌ文化体験学習及び地域学習について、具体的な内容の打合せを行うとともに、年間指導計画等について確認した。										
指導・助言を受けた内容	外部講師との連携した授業を進める際に、講師と教員の役割分										

受けた内容	担や考察させる「問い」について、綿密な打合せをすること。
第 3 回	令和年2月27日(木) 16:00~17:00
出席者	三宮賢豊委員、森洋輔委員、日置典邦委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組の振り返りについて ・次年度の地域学の年間指導計画について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習に取り組む際には、事前学習をしっかりとしてから体験させることが効果的であること。 ・舞踊等の学習について、発表の場を設けることは非常に効果的であり、是非検討いただきたい。
4 研究の成果と課題	
(1) 目的の達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 講師や関係機関等と学校が定期的に協議することで、郷土への愛着や伝統文化に関する指導上の工夫や連携の方法等について検討するとともに、「地域学」で地域人材を活用し、郷土への愛着や伝統文化への理解を深めることができた。 ○ 生徒の民族共生や伝統文化に対する意識や、伝統文化に関する学習に対する意識などを把握するため、アンケート調査を実施した。 ○ 学習内容をより一層探究的な内容にするため、教育課程編成上の留意点及び学習内容や評価の充実等について、地域の講師や関係機関等と連携し、検討した。 	
(2) 目標の達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域学」の指導内容、学習方法、評価方法などについて検討するため、地域の人材や関係機関等と協議した。特に白老町教育委員会、アイヌ総合政策課、生涯学習課、地域振興課の担当者と定期的に協議や意見交換を行い、地域で育てる生徒像について共有するとともに、取組の充実を図ることができた。 ○ 「インプットからアウトプットへ」を課題に、生徒がアイヌの古式舞踊について学ぶとともに、練習を重ねて「イランカラプテ音楽祭 in 白老」で披露する場面を設定することができた。 ○ 民族共生や伝統文化に関するアンケート調査を年間に数回実施し、生徒の伝統文化に対する意識や伝統文化に関する学習に対する意識の変容を把握したところ、「アイヌ民族に関する学習（歴史等）に興味がありますか」の問いに対し「とても興味がある」、「興味がある」と答えた生徒の割合が18.9ポイント上昇した（4月52.7%→12月71.6%）。 	
(3) 実践研究の規模	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部との連携を昨年以上に拡大し、より一層の連携を図ることができた。また、次年度の新たな取組へ向けた知見を得ることができた。 ● 現状では、取組の推進が特定の教科担当者に偏っているが、「地域学」を選択する生徒が増加傾向にあることから、他の教科とも教科等横断的な連携を図るなど、全校的な取組にするための校内体制を構築する必要がある。 	
(4) 研究成果の普及	

- 学校ウェブページや教科通信を利用して、校内外への広報と普及を心がけた。

(5) 実践研究内容

- 第1学年で実施した「総合的な探究の時間」の「アイヌ文化学習」におけるアンケート調査で、「アイヌ民族に関する学習（歴史等）に興味がありますか」の問いに対し、肯定的な回答をした生徒の割合が上昇（4月52.7%→12月71.6%）するなど、生徒の関心や意識の変容を確認することができた。
- 「イランカラプテ音楽祭 in 白老」のオープニングにおいて、本校生徒がアイヌの古式舞踊を披露して会場を盛り上げるとともに、本校の取組を発信したことで、本校の取組に対する地域の認識を高めることができた。
- 多くの外部講師の協力を得られたが、講師のスケジュールに合わせて授業時間を柔軟に設定するのが難しかったため、本校が想定した「①教員による事前学習での下地づくり→②外部講師による学びの設定→③学習内容についての考察」という一連の流れを思い通りに作ることができなかった。
- 外部講師による授業内容が大変興味深く良質なため、生徒が課題に対してより深く考察できるよう、探究の質を高められる取組の在り方について見し、検討する必要がある。

(6) 地域みらい連携会議

- 各外部機関の方々と目的や目標について共有し、互いに協力する体制を構築できた。
- 具体的な取組方法や課題についても共有し、課題解決のための方策や可能性についての助言を得ることができた。
- 各機関の方々の日程調整が難しいため、全員が揃う会議が開催できない場合であっても、必要に応じて各担当者との打合せを頻繁に行う必要がある。

5 プロジェクトの達成状況

(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

一部の生徒に対しては、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながった取組となった。

(評価した理由)

- ・ 1学年の「総合的な探究の時間」で実施した、アイヌ文化体験学習及び仙台藩白老元陣屋資料館見学の後に行われたアンケート調査の結果では、「アイヌ民族についての学習」に興味を持つ生徒は4月では52.7%であったのが12月には71.6%に上昇した。
- ・ 「地域の学習」に興味のある生徒は4月に41%であったが、12月には56%に上昇した。
- ・ アイヌ民族・地域に関する学習を義務教育で経験している生徒は全体の2割程度であったことを踏まえると、本校における学習が生徒に与えた効果を示したと考える。

(2) 【評価の観点】地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施したが、成果や課題の共有には至っていない。

(評価した理由)

- ・「地域学」の年間指導計画及びシラバスを作成する際に、地域の人材や関係機関等と連携して学習内容や評価方法を検討し、課題を共有することができた。特に、自治体や地域の産業の実態、及び自治体等が抱える課題について認識を深めることができ、課題解決のための方策を生徒に考えさせる場面を設定することができた。
- ・地域の課題を生徒に理解させるためには、1つの課題に対する実態把握のための情報収集が必要であり、課題解決のための方策や、地域課題の解決への貢献の方法について、生徒が時間をかけて探究し、発表させる取組に発展させるなどの可能性を見出すことができた。

(3) 【評価の観点】生徒の主体性について

(評価)

生徒は、指示により取り組んでおり、主体性は持ててない。

(理由)

- ・選択科目「地域学」では、昨年度に比べ選択者が大幅に増えたことで、生徒の学習に対する目的意識や意欲が多様化したこともあり、主体性に関しては物足りなさを感じた。
- ・次年度は多様化した生徒の学習意欲等に主体性を持たせられるよう、取組や指導方法の充実を図る必要がある。

(4) 【評価の観点】地域課題の解決状況について

(評価)

地域課題を把握し、取り組んだだけに留まっている。

(理由)

- ・白老町における外部講師と授業前に頻繁に打ち合わせをすることで、生徒にどのような地域課題を把握させ、どのような問いを考えさせるかについて、共通認識を持つことができた。
- ・課題解決の方策については、生徒から一面的な方策しか引き出すことができず、深く考察させた上での解決には至らなかった。
- ・次年度は1つの課題に対し、課題の実態の把握や解決の方策について時間をかける必要がある。

6 今後の取組

- ・本校の「地域学」については、地域でも取組内容について、徐々に認知されるようになってきており、新たな企画や協力の申出も出てきている。こうした可能性を生かせるよう、今後の企画へ向けた計画を検討する。
- ・今までは、生徒へのインプットが多く、生徒によるアウトプットの場面が少なく感じられた。取組内容を更に探究的な内容に高めていくとともに、生徒が主体的に動き、発信できるよう努める。

7 参考資料

- (1) 1学年 アイヌ文化体験学習 9月19日(木)



アイヌ民族文化財団学芸主査から、アイヌ民族の歴史や文化等について説明を受け、アイヌの楽器などを体験した。

- (2) イランカラプテ音楽祭でアイヌの古式舞踊を披露 6月22日(土)



町内の小学生とともにアイヌの古式舞踊を習い、「イランカラプテ音楽祭in白老」で披露した。

- (3) アイヌの狩猟体験 9月17日(火)



外部講師から、アイヌ民族が狩猟の際に利用するクチャ（仮小屋）の制作方法について学んだ。